

日本地衣学会

No.7

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	日本地衣学会第1回大会・設立記念国際シンポジウム報告 / 大会委員長.....	23
	23
	雑記.....	25
	ニュース.....	26

日本地衣学会第1回大会・設立記念国際シンポジウム報告

1st Annual Meeting of JSL / International Symposium to Commemorate the Establishment of JSL

(棚橋孝雄：大会委員長)

日本地衣学会第1回大会・設立記念国際シンポジウムを7月27,28日に神戸薬科大学で開催することができた。猛暑のさなかであったが、両日で、一般会員24名、学生会員8名、非会員2名に海外からの招待講演者を加えた計35名の参加者があった。

まず初日の午後には、総会が開かれた。大会委員長の棚橋が議長を務め、吉村庸会長の挨拶の後、議事に入った。午前中の評議委員会の議決を受け、庶務幹事、各種委員長より提案が行われ、建設的な意見交換ののち、各議案とも意義なく承認された。引き続き、学会の設立を記念して国際シンポジウムが「21世紀における地衣学の将来展望」というテーマのもと開催された。まず、山本好和氏（秋田県大）により、「21世紀における実験地衣学」と題した基調講演が行われた。20世紀後半の遺伝子操作や細胞培養技術の進歩が、これから地衣学の各分野で細胞レベル、分子レベルの研究を活性化し、共生生物である地衣の本

質の解明とともに、その成果が社会へと還元されるであろうとの明るい未来展望が示された。続いて、原田浩氏（千葉県中央博）による「アナイボゴケ科に関する研究」、また H.Thorsten Lumbsch 氏（Essen 大学、ドイツ）による「Molecular phylogeny and character evolution in the Pertusariales」の講演が行われた。形態観察と野外



図1. シンポジウムの一コマ. Lumbsch 氏の講演 (撮影: 黒川禎子)



図 2. 懇親会にて(撮影: 黒川禎子)

観察による分類学および系統分類学に関してこれまでの二氏の研究成果について講演が行われ、参加者との活発な質疑討論が繰り広げられた。その後、懇親会会場を移して、和やかな雰囲気の中で意見交換が行われ、また参加者同士の親睦を深めることが出来た。

翌日は午前、午後にわたり研究発表会が OHP を用いた口頭発表の形式で行われ、16 演題が発表された。内容は地衣の分類から、地衣類相、地衣の生理、培養地衣菌の成分研究・応用研究など多岐にわたっており地衣学の分野の広がりを実感させた。また各演題とも多くの質問が相次ぎ、専門分野の異なる研究者が地衣を中心に交流し、刺激を与えあう活発な発表会となった。記念すべき第 1 回大会を成功裡に終えることが出来たのも、会員、参加者諸氏の熱意の賜物と深く感謝したい。

日程

7 月 27 日

10 時 ~ 12 時: 評議員会

13 時 ~ 15 時: 総会

15 時半 ~ 17 時半: 設立記念国際シンポジウム

18 時 ~ 20 時: 懇親会

7 月 28 日

10 時 ~ 12 時: 研究発表会

13 時 ~ 15 時: 研究発表会

設立記念国際シンポジウム

「Prospective of Lichenology in 21st Century - 21 世紀における地衣学の将来展望 -」

《講演 1》Experimental Lichenology in 21st Century / (秋田県大) ○山本好和

《講演 2》Studies on Verrucariaceae / (千葉中央博) ○原田浩



図 3. 研究発表会の一コマ. 宮川氏による講演 (撮影: 黒川禎子)

《講演 3》Phylogeny and character evolution of Pertusariales / (Essen Univ.) ○H. Thorsten Lumbsch

研究発表

《発表 1》日本産ヨロイゴケ属の分類学的研究 / (広島大院) ○高橋奏恵, 出口博則

《発表 2》アンチゴケ属の分子系統 / (秋田県大) ○藤原文子, 原光二郎, 山本好和, (高知県伊野町) 吉村庸

《発表 3》横倉山 (高知県) の地衣類相 / (高知大) ○岡本達哉, 松川直寛

《発表 4》栃木県栗山村風穴地の地衣類 / (栃木県博) ○福田廣一, (千葉県中央博) 原田浩

《発表 5》葉状地衣類数種の生長量とその計測方法について / (ゼルグブランニング) ○安齊唯夫, (千葉県中央博) 原田浩

《発表 6》地衣類の人工栽培 / (秋田県大) ○岩崎友仁子, 小峰正史, 原光二郎, 山本好和

《発表 7》好銅性地衣菌の重金属ストレス / (秋田県大) ○藤井洋光, 原光二郎, 服部浩之, 小峰正史, 山本好和

《発表 8》マイクロ - PIXE を用いた地衣類への Co の吸着挙動の解明 / (日本原研) ○大貫敏彦, 香西直文, 神谷富裕, 酒井卓郎, 及川将一, 佐藤隆博

《発表 9》日本産地衣類におけるジジム酸ケモシンドロームについて / (高知県伊野町) 吉村庸

《発表 10》*Phaeographis* sp. より単離した地衣菌が顕著に生産する芳香族成分 / (京都大院) 森安右知子, 天野拓雄, ○宮川恒, 上野民夫, (大阪市環境研) 濱田信夫

《発表 11》*Haematomma* sp. より単離した地衣菌が生産する赤色素 / (京都大院) ○川勝理弘, 宮川恒, (大阪市環境研) 濱田信夫, (秋田県大) 山本好和

《発表 12》培養地衣菌 *Graphis* spp. の生成する graphislactone 類について / (神戸薬大) ○竹村由希子, 棚橋孝雄, 永倉直敬, (大阪市環境研) 濱田信夫

《発表 13》地衣菌 *Cladonia cristatella* による色素の培養生産と得られた色素による絹の染色 / (東京家政大) 長嶋直子, 片山明, (秋田県大) ○山本好和

《発表 14》地衣酸による光合成電子伝達阻害 植物種による違い / (八尾市八尾中) ○高萩敏和, (京都大院) 遠藤剛, 伊福健太郎, 佐藤文彦, (秋田県大) 山本好和, (日本ペイント) 木下靖浩, (広島大) 竹下俊治

《発表 15》地衣類による有用物質変換 / (京大化研) ○中村薫, 山中理央, (秋田県大) 原光二郎, 山本好和

《発表 16》イオウゴケの液体培養による香料のバイオトランスフォーメーション / (秋田県大) ○加藤みどり, 原光二郎, 小峰正史, 山本好和, (岡山理大) 浜田博喜

雑記 Miscellanea

ヘリトリゴケ雑記

私達は地衣類研究が本職ではないのだが、急いで古座川町の一枚岩の地衣類パッチを測定しなければならぬ使命感に駆られていた。この植物を攻略するためには、しかし、様々な問題点がある。

あれは本当に地衣類か。そもそも同定できる人はいのか。地衣類の研究者は絶滅寸前ではないのか。

それを確かめるためには基物を採集するしかないのだが、どうしたものか。採集したはいいが、学問のために夭折するのも厭だ。

パッチはほぼ丸く、等方生長している。だが、年成長率など研究されているのだろうか。

一枚岩の調査許可は出るだろうか。大体において、大学研究者などほとんど自治体に貢献していないし、忌み嫌われるだろうことは容易に想像できる、しかし、学問的好奇心と社会福祉の向上を両立する方法もあるはずだ、などなど。

そこで、まず、2001年3月25日にインターネットの検索エンジンを使って、地衣類とか年成長率などのキーワードで調査し始めた。日本地衣学会など有るはずもないだろう。世界各地を電子的に転々としつつも、千葉県立博物館に突き当たる。そういえば、私が京大実験所に就職したときに、お祝いの葉書をくれた沼田真博士が館長している施設なはずだ。未だ御存命だろうか。次に、これを手掛かりにして検索を進めた結果、「2001年度地衣学会講演要旨集」というホームページに、一般講演コーナーがあり、そこに、安斉唯夫・原田浩：“地衣類数種の一年間の生長量と計測法の試行”というのを発見した。

セカンドオーサーのアドレスを博物館のホームページから突き止め、とりあえず地衣類の成長率に関する

文献紹介を依頼した。意外に早い返答によると、ほとんどこの方面の研究例は日本に無いとのことだった。

これは困った。しかし、基本的なことは分かった。地衣類には3類型あり、その中でも痲状地衣類というのは成長が大変遅く、年に1mm以下らしい。そうすると、一枚岩の巨大パッチが本当に地衣類だとすると、半径が500mm以上ありそうだから、なんと500歳以上となるではないか。この話を種坂博士に伝え、彼はその通りと鷹揚に頷いた。

文献問題とは別に、この研究者に、ある無人島で採集した地衣類の標本の同定をして貰えることになった。有り難いことである。地衣などという生物は過酷な環境に生きていようだし、実際岩石や木の皮に固着しているし、まあ、適当に基物ごと送付すれば同定して貰えるだろうと安易に思っていた。ところが、実際に同定依頼してみると、その研究者から、もっと真面目に標本を作ってくれないと困ると、叱られた。

確かにそうである。私は高等植物の標本作成の指導をした経験があり、全くもってその通りだからだ。しかし、地衣類の標本作成はどうしたらよいか。保育社の図鑑を見ても今一つ要領を得ない。そこで、千葉県の件の研究者の所まで押しかけて、現物を見ることにした。百聞は一見に如かずであるが、それよりも興味深かったのは、高等植物に対する肉眼でのパターン認識観念はほとんど役に立たないこと、それと日本の地衣研究者が新たな相に入りつつあることであった。

結局、関西から千葉市まで日帰り旅行をしたため、金銭的には無視できない代価であったが、問題点のとは解決したも同然となった。(つづく)

(梅本信也：京大・亜熱帯植物研究所)

富士山頂地衣類調査記

富士山は遠くから眺めるもの、静岡県南部に育った頃、そう思っていた。千葉で就職してからは、富士スバルラインで5合目付近まで行くと、奥庭や御庭などといった、ミヤマハナゴケなどの地上生地衣群落のすばらしい景観に魅了され、富士山は車で行くのが良いと思った。まさか、今回、山頂まで登ることになろうとは・・・

8月27日、環境庁の委託調査「富士北麓生態系多様性地域調査（富士北麓地域）」の調査会代表篠田さんと事務局瀬子さんと、5合目で落ち合う。6合目7合目では、わずかに岩陰などにマキバエイランタイなどが見られた。ハイイロキゴケも多く、擬子柄を伸ばしている。それが8合目付近になると大型種はほとんど見られなくなってくる。ハイイロキゴケも背の低い団子状（というより饅頭のように）になり、

そこから伸び出る擬子柄はみられなくなる。8合目の小屋で一泊したのち、お鉢へ。思いのほか、いや途中からは予想できたのだが、地衣類は少ない。スコリアで不安定な地上に加え、風が強いため砂礫による侵食などが激しいためだろう。まさに極限の環境である。それでも岩場ではタカネゴケなどが細々と生えている。団子状のハイイロキゴケも、測候所（ドームはもうない）横の標高3776mで、ダイダイゴケ属らしき黄色い痲状地衣を見つけた。

地衣を見たいならやはり5合目がお勧めだ。山頂は労力の割りに見られる種類が少ないし、下山道もしんどい。このような委託の調査でもない限り山頂に行くことはなかっただろう。貴重な体験をさせていただいた。

（原田 浩：千葉県立中央博物館）

ニュース News and Announcements

日本植物学会大会関連集会「日本地衣学会集会」のお知らせ

日本地衣学会会員の皆様

首記件につきご連絡します。

日時：9月21日（土）18:00～20:30

会場：京都大学農学部総合館3階G会場

内容：

講演1「南極越冬報告 - 極地の地衣類」（久留米高専・中島裕之氏）

講演2「国際菌学会報告 - 地衣分子生物学へ」（秋田県大・原光二郎氏）

講演終了後に会合を予定しています。

会費：弁当・飲み物代実費負担

参加申し込み：

植物学会会員の方は21日13時までに大会受付で参加申し込み（弁当等の申込を兼ねています）を必ずお願いします。また、私宛にも参加予定のメールを18日までに送ります。

植物学会非会員の方は、18日までに私宛参加ご連絡下さい。代行して大会事務局に弁当等申込をします。ご不明の点がありましたらご連絡下さい。

（山本好和：庶務幹事）

複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、(社)日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の従業員以外、図書館も著作権者から複写権等の行使の委託を

受けている次の団体からの許諾を受けてください。著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、直接本会へご連絡ください。

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル 学術著作権協会。

Tel: 03-3475-5618. Fax: 03-3475-5619. E-mail: naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp

アメリカ合衆国における複写については、次に連絡してください。

Copyright Clearance Center, Inc. 222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA.

Phone: (978) 750-8400. Fax: (978) 750-4744

Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission from the following organization which has been delegated for copyright for clearance by the Japanese Society for Lichenology.

Except in the U.S.A.: Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC).

6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan. Tel: 81-3-3475-5618.

Fax: 81-3-3475-5619. E-mail: naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp

In the U.S.A.: Copyright Clearance Center, Inc. 222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA.

Phone: (978) 750-8400. Fax: (978) 750-4744.

日本地衣学会ニュースレター

発行日：2002年9月16日

編集：原田浩・岡本達哉・木下靖浩・棚橋孝雄

発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内